

メキシコでの生活も残り三日になり、この研修レポートも最後となりました。季節は雨期。という事で夕方の六時ごろからほぼ毎日雷を伴うスコール、日本であれば夕立ですが、これが多く想像以上に肌寒い毎日です。また、今月は部屋を新しい学生に譲り、大半の日々をメキシコシティの外で過ごしました。首都とは違う空気、人、街並み、そして私立の語学学校での出会いは素敵な経験となりました。

三宅 優美

新しい街、新しい家族、新しい出会い

七月の二週目からわたしはメキシコ州のお隣にあるOAXACA（オアハカ）州というメキシコ州から東にある街に少しだけ長く滞在し、Instituto Cultural Oaxaca（インスティテュート・カルトゥラル・オアハカ）というスペイン語学校で、DELE（デレ）という国際スペイン語資格の取得へ挑戦しました。DELEとは、世界中で通用するスペイン語学資格で、英語ならTOEIC（トイック）のようなものです。結果が出るのは日本に帰国してしばらくしてからなので今もまだドキドキしています。

この街は先住民で初めて、そして現在のところ唯一大統領を務めたベニート・ファレス氏の出身地でもあります。彼と家族の家も博物館として現在も街の中心に残されています。ここ、OAXACA（オアハカ）では短期間にもかかわらず充実した中身の濃い18日間を過ごすことが出来ました。住んでいる人たちもメキシコシティに住む人よりもとても親切で、ぼんやり地図を見ているだけでも心配して声をかけてくれたり、朝の忙しい時間でも遅刻してまで私を目的地まで連れていってくれたり心が温まるような出来事がたくさんありました。

OAXACA（オアハカ）州は、メキシコについて日本人が持つイメージが詰まっている街でもあります。例えばチーズ、チョコレートやコーヒーも有名で、カフェテリアで食べることが出来ます。雰囲気の良いお洒落なカフェテリアはオアハカの街中に立ち並んでいます。特にチーズは“オアハカチーズ”と固有名詞が付くほど有名で、メキシコのどの場所を旅行しても必ず出会うことが出来ます。数年前日本で人気になった“さけるチーズ”を覚えていますか？オアハカチーズはそのモデルな



のだそうです。もちろんオアハカチーズのほうがずっと美味しいのは言うまでもありません。

☆オアハカチーズとサーモンをはさんだケサディージャというメキシコ料理☆↑

GUELAGUETZA（ゲラゲツァ）祭

OAXACA（オアハカ）は、山や海もある自然が豊かな州であり、また、8つの先住民族が住んでいて、さらにはメキシコ観光の中心地の1つでもあります。七月は、メキシコの中でも一番大きなお祭りと言われている“GUELAGUETZA（ゲラゲツァ）祭”が開催され、州の中のあちこちの村から先住民が、世界中からは観光客が、これでもかと集まって来ます。スタジアムを使ったイベントは二回、7月23日と8月1日で、そこから本祭りが10日ほど開催されます。しかし、さすがはメキシコ一番ともいわれるお祭り。七月は毎日あちこちでパレードやダンス、特別なディナーショーが開催されたり、全員が浮足立っています。七月から八月にかけてどこでどんなイベントがあるか、カレンダーまでホテルやレストランで配布されています。

私がオアハカ滞在中に恋をしたのは、“Alebrije（アレブリッヘ）”という木の人形です。手作業で動物や昆虫、ハートなどの形に木を削り、その上絵の具や小さな飾りを使用し作られる人形で一つとして同じものはありません。その為に大きくなればなるほど値段も跳ね上がっていきます。写真は、本物のクジャクの羽を使用したクジャクをかたどった大きな人形です。もともとは、存在しない生き物、ドラゴンや悪魔などメキシコの神話に基づいた人形が主に制作されていたのだそうです。

七月は周辺の小さな村を含めたOAXACA（オアハカ）州全体が盛り上がる“ゲラゲツァ祭”ということで、私は、お土産屋さんでハチドリの木の人形に職人さんにグラデーションのつけ方や、羽などの模様を教えていただきながら3時間かけて着色体験をすることが出来ました。



お祭り中には、他にもテキーラの兄弟酒・メスカルや、名産品のチョコレート、チーズなどのフェスティバルが開催され、ラッキーなことにすべて参加することが出来ました。メキシコに旅行したいという方にはぜひ、オアハカのゲラゲツァ祭に参加したら楽しい思い出になるのではないかなと思います。



☆公園にあったOAXACA(オアハカ)文字と、劇場からの夜景☆

終わりに

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加することで、私は大変貴重な経験をさせていただきました。未知の土地での家探しから始まり、何もかもが初めての体験だらけの生活でした。普通の語学留学では一年と言いながら実際は10か月程度であったりする中、本当に一年の滞在をすることが出来て、大学での研究対象である言語学においても貴重な時間を過ごすことが出来ました。たくさんの国の人とも時間を共有でき、生まれ変わったような気分で日本に帰りました。この場を借りまして、協力して下さったたくさんの方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。



平成二十八年度八月一日
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画 第四十三期生
三宅優美